

ピュアフラワー新聞

2015年7月号

— Pure Flower News —

Vol.15

＊七夕の伝説と朝顔の花

今回は7月ということで、七夕にちなんだお花をご紹介します。

七夕にふさわしいお花といえば、夏の風物詩でもある朝顔。七夕の時期に花を咲かせるからという理由はもちろんですが、もう少し深い意味合いがあります。

朝顔は別名「牽牛花(けんぎゅうか)」とも呼ばれており、「牽牛」というのは「牛を牽(ひ)く」ことを意味しています。その昔、中国では朝顔の種が薬として用いられ、とても高価なものとされていました。「牽牛花」という名前は、この朝顔の種を贈られた人が、牛を牽いて謝礼を交換したことが由来となっています。(ちなみにこの朝顔の種も、同様の由来から「牽牛子(けんごし)」と呼ばれ、現在も生薬として販売されています。)

さて、これがどのように七夕に関係するのかというと、朝顔が七夕の時期に咲くのは、「牽牛」の名のように牛を牽いて、彦星と織姫が出会えたことのあらわれだといわれているから、ということです。朝顔の花が咲いている様子が、よりいっそうロマンチックに感じられる、素敵な由来ですね♪



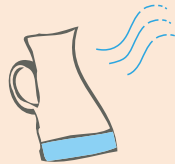
＊ 今月のワンポイントレッスン

今回は、夏場の花を長持ちさせる方法についてご紹介します。夏はお手入れひとつでもちが変わります! 綺麗なお花を長く楽しむために、こまめなお手入れを心がけましょう。

1. 茎の切り口はいつも新鮮に!

夏場は花びんの中で繁殖したバクテリアにより、水が吸いあがりにくくなります。毎日茎をななめに切りましょう。

※切れ味の良いハサミでないと逆効果になるので注意!



3. お水はいつも新鮮に!

腐ったご飯を食べるとお腹を壊してしまうように、お花もバクテリアが繁殖したお水を吸い上げると枯れてしまいます。お水は毎日換え、花びんのぬめりも洗い流しましょう。

2. 余分な葉・つぼみ・花は取る!

お花は身体全体に栄養を送ろうとするので、余分な葉がついていると、花まで栄養が行き渡りません。同じ理由で、咲きそうにないつぼみも取ったほうがお花が長持ちします。

また咲き終わったお花は置いておくと全体の老化を早めるので、早めに取り除きましょう。

4. 風通しがよく涼しい場所に置く!

お花も夏場は気温の高い場所では長持ちしません。直射日光の当たらない玄関など、暗めで涼しい場所に置いてあげましょう。

ただしエアコンの風に当たる場所はNG!

最後に、お手入れにオススメのハサミをご紹介します。切り花を切るのに最適な、持ちやすく使いやすいハサミです。その優秀さはほとんどのお花屋さんが使っているほど! カラーはレッド・モスグリーン・ブルー・ピンクの4色。ご注文はお電話または配達スタッフにお申し付けください。

坂源
ハンドクリエーション
1,730円 (税込)

F-170